



4 **【講演抄録】**  
内外情勢調査会 全国懇談会 (2018年9月11日開催)  
**珍惜机遇，**  
**走好中日关系新航程**  
**程永華** 駐日中国大使



8 **【講演抄録】**  
内外情勢調査会 長崎3支部合同懇談会 (2018年9月27日開催)  
**夢をかたちに**  
～生きがいと活力、潤いのある長崎県を目指して  
**中村法道** 長崎県知事



10 **News & Column 時事通信から**  
和牛、豪州へ17年ぶり輸出再開／さようなら築地市場



13 **寄稿**  
**諦める災害と乗り越える災害**  
内外情勢調査会 講師 福和伸夫 (名古屋大学減災連携研究センター長・教授)



16 **会員登場**  
**小松電機産業株式会社** [松江支部]  
八雲立つ出雲から真のイノベーションを追求  
全国・世界に広がる三つの事業を創造

18 「ゲスト会員制度」対象支部一覧 (2018年11月)

21 **information** 時事世論調査／内外情勢調査会のお知らせ

22 **自治体アンテナショップめぐり④**  
千葉県 共同販売拠点「まだあ～るちば」

◎今月の表紙は  
「紅葉からのたき火」

紅葉を見たら風に舞う紅い葉から落ち葉を連想し、子供の頃のたき火を思い出した。庭木の葉でなく稲わらのたき火。近所に田んぼが多く稲の収穫後はたき火をしていた。芋を焼くところは同じ。秋です。  
写真／渡瀬啓一郎



月刊 J<sup>2</sup>TOP (ジェイツウトップ)  
2018年11月号 (2018年10月25日発行)  
Vol.140  
編集・発行・発売：時事通信社  
〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8  
Tel.03-3524-6963  
編集協力：一般社団法人内外情勢調査会  
時事通信出版局  
印刷・製本：太平印刷社  
定価：(本体1,500円+税)



■内外情勢調査会 全国懇談会【講演抄録】

**珍惜机遇，走好中日关系新航程**  
(チャンスを大事に、中日関係の新たな航路を進もう)

**程永華** 駐日中国大使

■内外情勢調査会 長崎3支部合同懇談会【講演抄録】

**夢をかたちに**  
～生きがいと活力、潤いのある長崎県を目指して

**中村法道** 長崎県知事

■寄稿

**諦める災害と乗り越える災害**

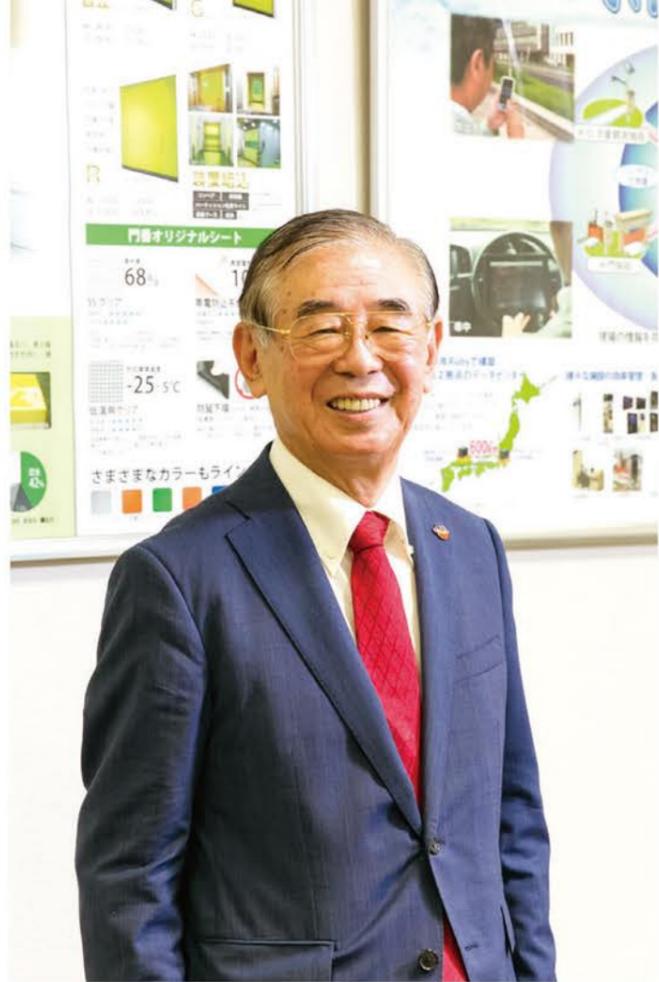
内外情勢調査会講師  
**福和伸夫** 名古屋大学減災連携研究センター長・教授

■会員登場

**小松電機産業株式会社**  
[松江支部]

# 八雲立つ出雲から真のイノベーションを追求 全国・世界に広がる二つの事業を創造

## 小松電機産業株式会社「松江支部」



小松電機産業株式会社代表取締役、人間自然科学研究所理事長の小松昭夫氏

◎文/本誌編集部  
◎撮影/西尾優一(吉田写真堂)

密閉性、静粛性等の改良を重ね、一時は国内シェア70%を占める大ヒット商品に成長した。

市場創造に成功したことから、1991年中小企業研究センター賞、ニュービジネス大賞、2012年国土交通大臣賞、経済産業省ものづくり日本大賞などを受賞。さらに(社)シャッタードア工業会にシートシャッター委員会が設けられ、小松氏は10年間初代委員長として大手各社をまとめ、構造・安全・メンテナンス基準を作り、業界として初のエコマークの認定も獲得した。そして日系企業のアジア展開から中国、韓国、東南アジアにも普及が始まり、「門番」は、海外においても知られるようになり、築地市場に続き、豊洲市場でも大量採用され、オープンに伴い国内外の多くの人々の目に触れるようになった。

### 全国の自治体が導入する「やくも水神」

納入実績17万台の「門番」とともに、小松電機産業を支えるのが、クラウド総合水管理制御システム「やくも水神」である。

2000年、出雲市で採用以来、今では全国470自治体1万1500施設(18年10月現在)で採用されているが、

気制御で創業し、電気工事・土木建築業界の過酷な因習に耐え、配分電盤の製造、上下水道計装へと業容を拡大した。だが、85年広島県境、赤来町発注の水道計装案件で決定的ないじめが表面化し、売り上げの7割を占める電気工事業界向け配分電盤の受注が激減した。

「倒産が噂され、社員の6割が辞める危機に見舞われた」と、小松氏は当時を振り返る。

しかし、急ごしらえながらも80年に完成した山陰の冬の寒さを防ぐ高速シートシャッター「門番」が全国販売に向け地元の協力者を得て生産を開始。物流体制も構築し、新たな発展への業態を整えた。

シートシャッターとは、人や車両を感知し、ビニール製のシャッターが瞬時に自動開閉する扉で、防寒・防風・防塵・防音性に優れ、現在では工場や倉庫の出入り口・間仕切りに広く使われる。その一方で食品の安全、防虫・衛生管理の面からも注目が集まっている。

「当時は『手動扉、工場用自動ドア、ビニールのれん』が使われていた時代。フォークリフトの普及により、『門番』は、自動車業界をはじめ、あらゆる分野で受注が増えていった」という。

その後、安全性、耐久性、スピード、近年、企業の社会貢献CSV(共通価値の創造)、CSRが叫ばれるが、小松氏はこの先を行くCSVを提唱。人類の長い「対立の文明から共生の文化」へ移行できる「旗」を立てるチャンス待っている。

書籍「魔法の経営」「天略」「母なる中海」「朝鮮半島と日本列島の使命」にも詳しく紹介されているが、1994年に小松氏によって設立された人間自然科学研究所は、戦後政治の変動期に起きた乱気流を追い風に、国家事業の中海干拓を中止に、また電電公社民営化を追い風に、お客様代表会議メンバーの立場を生かし、松江市他7町1村の電話番号統一を成し遂げた。

「最近ではクラウド・人の国家間大移動・核の時代の地政学を研究」という小松氏によれば、島根県の「竹島の日」制定、福島原発事故以後、世界最新鋭・日本最大「改良沸騰水型島根原発3号炉」の完成、朝鮮半島の激動を受け止め、沖縄、韓国、北朝鮮、ロシア、アメリカに知己を得てきたことを生かし、今年9月5日、松江市くにびきメッセで開催された「島根ものづくりフェア」で「21世紀の真のイノベーション」として6000人を前に大構想を発表。研究所のホームページにも掲載した。

長年に渡るこれらの活動により、小松氏は13年のオランダ・ハーグ市の平和宮100年記念式典で、ビル・ゲイツ氏などとともに「平和事業家、世界の20人」に選ばれた。そして韓国でテレビ「市民時代」、「英雄」、中国でも02年「人民中国」、05年「中央電視台」、

島根県と鳥取県にまたがる「中海」、日本背景にも選ばれている、宍道湖畔の水の都、国際文化観光都市・松江。グローバル時代の地政学を研究し、リスクを分析かつ生かし、独創的な構想力で全国・世界に広がるマーケットを創造してきたベンチャーの雄とも言われる会社がある。

### 逆境から生まれた二大ヒット商品

工場の出入り口・間仕切りに利用されるシートシャッターと、クラウド時代を先取りした総合水管理制御システムで、全国展開を行ってきた小松電機産業株式会社だ。

1973年、代表取締役の小松昭夫氏が、勤務先の倒産を契機に弟の光雄氏(常務取締役)と二人で八雲村(現・松江市)の生家の納屋から起業。土木・下水用ポンプの修理、工場自動化の電

での「やくも水神」紹介や13年、国交省成功モデルに上下水道すべてで「やくも水神」が導入された兵庫県多可町が指定され、福島県南会津町が水道イノベーション賞特別賞を受賞したこと、自治体に中央監視制御装置を置く時代が終わったことが広く知られるようになった。無償バージョンアップを続けた「やくも水神」による水イノベーションが確立したのである。

こうした成果に小松氏は「Global+IoT+AI+5G」の時代を迎え、「日本縁結びの地」を「世界縁結びの地」にすべく、志を共にできる出合いを待っている」とも語る。

### 1994年に

#### 「人間自然科学研究所」を設立

「門番」と「やくも水神」という大ヒット商品を故郷の八雲村(人口3800人)から生み出した小松電機産業は、1981年社是「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」を定め、その後経営理念「おもしろ おかしく たのしく ゆかいに」、経営方針「三方よし 後利」を付け加えた。後に小松氏は、「欲求5段階説」で著名なアブラハム・マズローが晩年、5段階目の「自己実現欲求」の上に「自己超越実現」を置き、個人の利益を超えて広く人類や社会のために貢献できる課題や使命を持つて目的を達成しようとする欲求を置いたことを知り、社是、経営理念、経営方針はこの「自己超越実現」に合致していることを確認したという。

さらにNHKをはじめ全国メディアにも多数取り上げられた。10年には池上彰氏司会のNRI未来創発フォーラム(東京国際フォーラム2500名)



小松電機産業株式会社  
一般財団法人 人間自然科学研究所  
〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-188  
TEL: 050-3161-2490  
代表取締役・理事長: 小松昭夫  
資本金: 1億円  
設立: 1981年12月(創業: 1973年2月)  
事業内容: シートシャッター happy gate「門番」、総合水管理制御システム「やくも水神」の開発・製造・販売

# 珍惜机遇， 走好中日关系新航程

(チャンスを大事に、中日関係の新たな航路を進もう)



## 程永華

駐日中国大使

駐日中国大使の程永華氏は9月11日、内外情勢調査会全国懇談会で「珍惜机遇，走好中日关系新航程」(チャンスを大事に、中日関係の新たな航路を進もう)と題して講演、日本とのかわり40年にも及ぶと自己紹介し、この間に経済や人的交流は著しく発展したと数字を挙げながら詳解した。先の李克強総理の日本公式訪問については、「日中は協調の時代に入った」とする安倍総理の言葉を引きながら大きな成果を収めたと強調。一方、米中貿易戦争の「責任は中国にはない」と述べ、仕掛けられるならば「反撃せざるを得ない」との強い姿勢を打ち出した。

(文責・編集部)

程永華(てい・えいか)  
1954年生まれ、中国吉林省出身。77年～83年中華人民共和国駐日本大使館職員、アタッシェ。83年～89年中華人民共和国外交部アジア局三等書記官、二等書記官。89年～92年中華人民共和国駐日本大使館二等書記官、一等書記官。92年～96年中華人民共和国外交部アジア局副課長、課長。96年～2000年中華人民共和国駐日本大使館参事官、公使参事官。2000年～03年中華人民共和国外交部マレーシア特命全權大使。08年～10年中華人民共和国駐大韓民国特命全權大使。10年より中華人民共和国駐日本特命全權大使。

### 中国総理として8年ぶりの 公式訪問で大きな成果

李克強総理が今年5月、中国の総理としては8年ぶりに日本を公式訪問し、大きな成果を取めた。李克強総理は、「この訪問をもって、中日平和友好協力事業の新しい船旅、再出航を実現しよう」と述べ、安倍総理も「今日から日中関係は競争から協調の時代に入った」と語った。私たちとしては、ともに正しい方向をしつかりと進み、両国関係が発展するよう進めることが私どもの仕事だと思っている。この目標を実現するためのキーワードは「認識」「相互信頼」「行動・アクション」の三つ。よい中日関係を築くには、両国関係に対する客観的かつ理性的な認識が必要だ。中国と日本はお互いを常に冷静に考え、理性的に客観的に認識することが必要だ。中国と日本は、一衣帯水の隣国だし、文化的にも共通部分はかなり多く、共通の利益・ニーズが今日ほど大きくなっていくことはなかったかもしれない。だから、中日関係の持続的で安定した発展を推進することは、地域と国際においてもますます重要な意義を持つと思う。

今年中日平和友好条約40周年だし、中国にとっては改革開放政策実

施40周年だ。その条約と改革開放の関連性だが、私としては関連性があると思っている。鄧小平氏の訪日は10月22日。中国が改革開放政策を決めたのは、12月18日の中国共産党11期3中総会。鄧小平氏の訪日の際、私は大学を卒業したての大使館で一番若い外交官として連絡担当をしていた。当時、鄧小平氏が新幹線に乗ったときに「とにかく速い、速い」と繰り返し、「中国はまさにこのスピードが必要だ」と言った。中国の経済が、当時の日本と比べてあまりにも遅れているという気持ちを表していたと思う。日本企業を視察した後には、「これで現代化とは何事か分かった」と独り言のように言った。日本のことをいろいろと考え、中国の現代化のビジョンを12月18日の「改革開放」政策決定に結び付けたかなと思っている。

### 互恵協力深めた40年だった

この40年間は、お互いに互恵協力を深めた40年でもあった。改革開放政策に日本からはいち早く、官民挙げて資金・技術協力、投資など、さまざまな形で支援・支持をいただいた。現在、中国は日本にとって最大の貿易のパートナーで、中国にとっては

2番目の貿易相手国。人的往来は昨年、中国から735.6万人、日本から中国へは268万人で、双方方向で1000万人を超えた。1972年の国交正常化当時の貿易額は10億ドル、人的往来は1万人未満だったことと比べると、お互いの関係が深まっていることが分かる。中国は、現代的な経済システムの構築、サプライサイドの構造改革、農村振興、地域のバランスのとれた発展をさらに進めていく。中国は市場参入のハードルを大幅に緩和し、魅力ある投資環境を整え、知的財産権の保護を強化していく。ちなみに、今年11月には上海で、国際輸入博覧会を開くが、日本の企業が積極的に参加していると聞いている。

### 中日両国は手を携えて 地域協力を進めるべき

李克強総理の訪日期間中に、中国は「第三国市場における協力」という文書に調印した。具体的には、まず東南アジアあたりから、両国の企業が協力していこうという趣旨だ。「一帯一路」のこうした協力は、アジア地域においてもプラスの役割を果たせる新しい分野だと思う。もちろん「一帯一路」に対してはいろいろな意見もある。しかし、基本的なコンセプトは、共に協議し、共につくり、その成果を分け合おうということだ。中国と日本は、共にアジアの経済発展・繁栄という使命を担い、手を携えて地域協力と繁栄を進めるべきだと考える。アジアは、世界経済の重要なエンジンであり、希望に満ちている。もちろんリスクや課題もあるが、「平和を求め、安定を図り、発展を促進し、話し合いによって意見の相違を適切

中国の対外開放政策に関して習近平主席は、今年4月の海南島のボアオ・アジアフォーラムでも「中国の開放の扉は閉じることなく、ますます大きく開かれる」と表明した。中国は今後5年で8兆ドル余りを輸入し、6000億ドルの外国投資を受け入れ、対外投資総額は7500億ドル、海外への旅行者は延べ7億人を超えると見込まれている。このプロセスにおいて「一帯一路」というシルクロードベルト開発は、中日協力の新たなプラットフォームになる。「一帯一

路」の共同建設は中国が世界に提供する公共財で、イニシアティブは中国が発信したが、そのチャンスと成果は世界全体で分け合うという考えだ。日本各界の「二帯一路」に対する認識・姿勢が日増しに積極的になっていることをうれしく思う。



に処理する」ということはアジア諸国の共通認識となっている。中国、日本、韓国の協力は、一時はちよっとぎくしゃくしたが、昨年からのいい雰囲気になってきている。RCEP（域内包括経済連携（オールセップ））交渉も、かなりの進展が見られるなど、アジアの勢いは盛んで、世界の発展を進める上で、ますます重要な役割を果たしている。

中国と日本には多くの利益の一致点がある。経済、政治、安全保障ではややデリケートなところもあるが、全体的に協力して進めるべきだという考えだ。世界においても、中国と日本は共に開かれた世界経済の共同建設を推進し、一国主義、また保護主義に反対すべきだと思われ、これが国際社会、多くの国々の共通した声だとも思う。

**中米貿易不均衡の責任は米国に**

経済のグローバル化は時代の流れであり、中国と日本はグローバル化によって利益を得てきたし、それを守るべき立場にある。しかし今は保護主義、一國優先主義が台頭し、それが世界経済の回復を妨げるリスクが顕在化している。こう言うと、中国とアメリカの貿易摩擦、貿易戦争と言う方もいて、これが

「信為万事之本（信は万事のもとなり）」と返した。「共にこれから信頼をもってお互いに友好を進めよう」という意味で、それが国交正常化の原点だと思われ、これをお互いに守っていかなければならないと思う。

**中日関係の安定した発展を図る 留意ある**

世界は依然として安定とは言えず、人類は多くの難題に直面している。つまり、平和的発展の道を進むことは、中国にとっても、アジアや世界にとっても有利だから、中国は引き続き平和的に発展させていく。中国政府は、中日関係の健全で安定した発展を図り、両国関係のリスク対応能力を引き上げる用意がある。先の李克強総理訪日の際に、両国間で海空連絡メカニズムが正式調印され、運用を開始した。日本と中国は、2000年余りの交流の歴史の上に、相互理解を深めていかなければならない。ここ数年、中日関係は曲折をたどったが、昨年来、雰囲気改善し、その勢いは強まっている。今年に入ってから相互往来は次第に多くなり、5月の李克強総理の公式訪日で中日関係は正しい道に戻ることができた。この勢いを保ち、意見の相違・矛盾をコントロールして、二国間関係の

協力の妨害にならないように心得るべきだ。そのために、双方は両国関係の健全で安定した発展を図るといふ明確なメッセージを、両国民や国際社会に発信すべきだ。また、双方は両国関係のプラスの面を一段と拡大すべきで、李克強総理訪日の際に、年内の適切な時期に安倍総理が中国を

公式訪問するよう招請したところだ。さらに、双方は矛盾や意見の違いを適切にコントロールし、複雑で敏感な問題を適切に処理すべきだ。これだけ大きな隣国同士である中国と日本は、お互いの関係はよくするしかないし、この関係は壊してはいけない。これは2000年にわた

る中日関係の歴史が教えてくれたシンプルな道理だ。これは、8年半にわたって大使を務め、5回にわたる東京勤務のほか、北京でも日本と関連する仕事を手掛けるなど、40年近く日本にかかわる仕事をすることで得心得だと思っている。

**質疑応答**

**中国は自由貿易体制を守る**

西村哲也（時事通信社外信部長）

安倍総理が今秋に訪中し、来年は習近平国家主席が来日されると思われ、一連の首脳外交で中国が重視する点について伺いたい。

程 安倍総理は中日関係について、今年の時事通信の新年会でも、「今年を着実に両国の国民が改善と感

れるような年にしたい」と話をした記憶がある。そういうことがまさに双方のリーダー、両政府が進めるべき課題だと思われ。要人の往来で、明確なプラスのメッセージを発出することにより、相互信頼を深める方向性を示すことができると思われ。

西村 「二帯一路」に関して最近、中国の指導者が「閉鎖的な中国クラブではない」といふなど、これまでにならぬ発言をしている。構想の進め方に変化があることを意味するの

程 この言葉は、外部からの「一带一路」に対する批判や偏見に対する反論として示されたと思う。たしか日本からも疑念というか疑いもなかったとは言えない。中国は、「共に協議し、共に建設し、その成果を分け合う。これに賛同する国や企業であれば、誰でも入ろう」と考えてい

る。中国の要人は、「二帯一路」というのは、中国の独奏曲ではなく、オーケストラ、みんなで一緒にやる交響楽というたとえをしている。「一带一路」イニシアティブは5年経ったが、中国はこれからもこうした考えで進めていく。

西村 米中の貿易摩擦が、中国政府の政策に具体的な影響を与えることはあるのか。また、米中二国間でFTA（自由貿易協定）を結ぶ可能性はあるのか。

程 かつて鄧小平先生は、「対外開放」というのは門戸を開くということ。ドアを開けば、蚊やハエぐらいは入ってくるが、蚊やハエを止めるために門戸を閉ざすと新鮮な空気が流れて来ず人が死んでしまう」と言われた。これからも大きな方向性は同じだ。しかし、アメリカは一方的



**◎北海道地震災害義捐金を日々に寄贈**

事務局では全国懇談会終了後、先の北海道胆振東部地震で被害に遭われた方々の一日も早い復旧と復興を祈念して、義捐金を募りました。出席会員の皆さまから寄せられた10万8215円の善意は、そのまま日本赤十字社に寄贈いたしました。ご協力ありがとうございました。

に貿易戦争を仕掛けてきた。これはWTO（世界貿易機関）規則に違反することで、世界の貿易秩序を乱し、全体的にはマイナスだと思われ。中国としてはアメリカのこういうやり方に対しては断固とした態度、対抗措置を取り、多角的な貿易体制を守る立場を取っている。中国としては、世界第二の経済国として、引き続き自由貿易を提唱し、みんなと一緒に経済の発展・繁栄を維持し、努めていく。

